

## ケニアのクリスマス支援募集！

ケアの子どもたちに、  
イエス様を体験するクリスマスプレゼントを！



ケニア  
クリスマス  
プレゼント！

締切日  
9月10日  
(日)

ケニアでは、学校内でメトロの活動をしていますので、早いクリスマスですが、学校が休みに入る10月の前にプレゼントを渡します。キャンプの募集も続いておりますため、無理のない範囲で構いませんので、支援をご検討ください。

プレゼントは、ご支援いただいている子どもに渡す個別プレゼントと、クリスマスメッセージを語る週に参加した全員に渡すもの（クリスマス支援献金）があります。数万人の規模になりますので、全員に渡すプレゼントは、ビスケットとジュースなどになりますが、それでも食べることに苦労している彼らの生活からすると、大興奮するようごちそうです。

また、個別プレゼントは、子どもだけでなく家族全員にとって、イエス様の誕生をお祝いするクリスマスを楽しめる素晴らしいプレゼントになります。追い詰められたような日頃の生活から解放されて、クリスマスを祝うことができるようになっていただければ感謝です。

詳細は同封の申込用紙をご確認ください。

スマホでのお申込はこちらから⇒

PCからは、<https://metroworldchild.jp/ke-christmas/>



### ケニアキャンプ支援

締め切りは、8月25日(金)です。

### 今月の引き落とし日！

8月16日(水)です。

### 今月号の目次

P2～5…ビル師からのウクライナ支援活動報告

P5…アフリカの状況

P6…日本事務所からの重要なお知らせ

# ウクライナ の叫び

## ビル師からの最新活動報告

赤字は日本事務所、黒文字はビル師の記事です

ビル・ウィルソン師のフェイスブックや、方代牧師の投稿などですでにご存知の方々もいらっしゃると思いますが、ウクライナの支援状況についてビル師の投稿記事からお知らせいたします。

### 6月29日の投稿より

現在、子どもの救出には往復3日はかかります。さらにロシアで起こったワグネル問題により、状況は以前よりも不安定になり、そのため、子どもたちのいる場所に救出に行くのは、さらに危険な地域を長距離走行する必要が出てきました。

この種の計画は非常に流動的で、常に大きな重圧がかかります。しかし、私たちには素晴らしいチームが与えられています。あなたのご支援により、彼らの計画を実行できました。あなたも、私と同じように最前線に立っていたのです。

皆さんがこれまで、さまざまな方法で祈り、助けてくださいました。私がどれほど感謝しているかご存知でしょう。そして、奇跡は2回目の走行で起きました。

この作戦での目的は、小型トラックで子どもたちを家まで送

り届けることでした。中心となっていた女性が、ウクライナ人男性に、何をしているのかと尋ねられ、行っている作戦について説明すると、彼は子どもたちを家に帰す働きに賛同し、協力を申し出てくれたのです。

私たちは皆、神の時があることを知っています。神の時は、決して遅れることはありません。常に、最善の時です。これは驚くことではありません。

昨夜、彼がやってきて、私たちは、すでにこの大きな古い果物輸送用トラックを手に入れました。このトラックの利点は、1回の走行で40~50人の子どもたちを運べることと、上部を防水シートで覆うことができることです。すでに手配していたトラックよりはるかに優れており、大いに役立ちます。

作戦をできるだけ早く進めるために2台の運搬用トラックが同時走行しています。この果物トラックは、食料を積んで地点1に到着し、翌朝、NY時間で午前10時に47人の子どもたちを乗せて出発しました。

ロシア兵に耳を切り落とされた少女が、今、小型トラックの方に乗っています。そのトラックは38人の子どもたちを家に連れて帰ります。そして、もう一人の痛々しい傷を負った子どもが、家族と再会するために同じトラックに乗っています。皆さんのおかげでそれが実現できたのです!

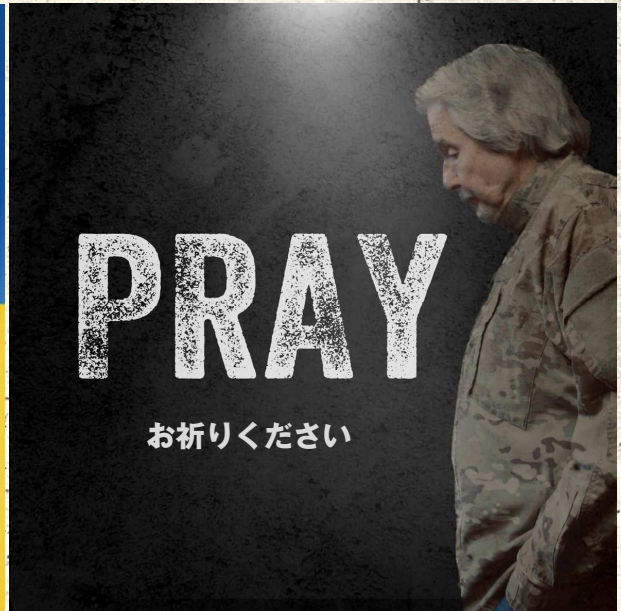
私たち全員が緊急性の高さを思い知らされ、衝撃を受けています。きっと皆さんも私たちと同じようにお感じになるでしょう。実は昨日、地点1で先週末に新たに2人の子どもが亡くなったという連絡を受けました。何が起きたのか正確には分からないため、さらに情報入手しようとしています。

この子どもたちは、食料が尽きようとしている上、そのうちの何人かは重病です。数週間前に現地で見たとお墓に、さらに2つのお墓が追加されました。もう時間がありません。誰もがそれに気づいています。

これらの子どもたちを家に帰さなくてはなりません。本当に時間の猶予のない子どもがいます。

地点1には289人の子ども、地点2には154人、地点3には、87人の子どもたちがいたことを覚えていらっしゃるでしょう。

これらの作戦実行後、現在3つの場所には380人の子どもた



ちが残っています。大きなプレッシャーはありますが、私たちはまだ前進し続けています。

最初にお約束した通り、これらの子どもたち全員がそこから脱出して、家族の元に戻るまで、私たちはやるべきことは何でもやり続けるつもりです。

イエスの名において、彼らを家に連れて帰りましょう。

## 7月2日

これまでに150人の子どもたちを家に連れて帰りました。救助に関する最新状況です。小型トラックと果物トラックが、一昨日の3回目の走行から戻ってきました。

2台のトラックは今夜、NY時間の午後10時に再出発します。現地の状況は、日が経つにつれて厳しさを増しているため、私たちのチームは朝を待たず、夜出発することにしました。2台のトラックはさらに95人の子どもたちを家に連れて帰る予定で、この走行には約3日かかります。

10歳の少女クロエのビデオも紹介したいと思います。私と同じように、これが皆さんの励みになることを願っています。

2020年、クロエが7歳の時、私はケニア・クリティカル・キャンペーンでコロナ禍のケニアの子どもたちへの支援を募っていました。

彼女は教会の日曜学校で、ケニアの多くの子どもたちが飢餓に苦しんでいることを知りました。クロエは、ケニアの子どもたちに食べ物を送るために、自分の貯金箱のお金を全額寄付することにしたのです。

2022年にマレーシアのクアラルンプールにあるクロエの教会で説教した時、私はついにクロエに会うことができました。私とメロを長年支えてくれた素晴らしい教会です。日曜礼拝の後、彼女は私に話をするためにテーブルにやって来ました。そして彼女は、食事ができず、メロの日曜学校に参加するためにスポンサー

を必要としている子どもたちがまだたくさんいることを知りました。彼女は両親にお願いして、家族でケニア3人、フィリピン1人の合計4人の子どもたちのスポンサーになりました。

そして今、私たちは530人のウクライナの子どもたちを帰国させようとしています。ほとんどの方がすでにご存知のように、クロエも、私が数週間前にドローン攻撃で怪我をしたと聞きました。



彼女は両親に、ビル牧師がこの子どもたちを救うのを手伝いたいと言い、もう一度、彼女は貯金箱を崩して支援しようと思ったのです。彼女のことをとても誇りに思います。彼女は神のために素晴らしいことをし、子どもたちを助けようとしている素晴らしい女の子です。

彼女は本当に素晴らしい心を持った特別な女の子です！なぜ彼女が助けようと思ったのか、彼女から直接聞いてください。おそらく私たちは皆、彼女の視点から学ぶことができるでしょう。

シンガポールツアーを終えてから、数週間後にクアラルンプールで彼女にまた会う予定です。次に彼女に会う時には、3地点にいた残りの子どもたちが全員、家に帰って家族と再会していることを祈ります。530人(528人になってしまいましたが)全員が家に帰るまで、私たちは止めません。

そしていつものように、「ありがとう」。最前線で活動する人たちと、私たちをサポートしてくれる人たち、両方が必要なのです。私、クロエ、チーム全員、そして家に帰ろうとしている残り子どもたちから「感謝します」。

## 7月7日

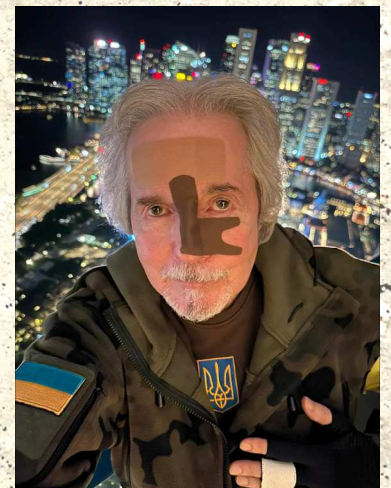
皆さんはこの混乱の真只中に私と共にいて、この作戦全体のあらゆる部分を可能にしてくれました。

昨日の時点で、ついに子どもたちを家に送り届けるのに十分な資金が集まりました。そこで、この自撮り写真では、胸に手を当てて私の心を表現してみました。これは私なりの「ありがとう」の伝え方です。

また、2日前に95人の子どもたちを家に送り届けた後出発した4回目の走行車が、無事に戻ってきたこともお伝えしたいと思います。これは非常に多くの方々や教会によるチームの働きです。5回目は、NY時間7月7日の夜に出発する予定です。残りの285人の子どもたちを2台のトラックで家に送るには、あと3回の走行が必要です。彼らのために祈り続けてください。

明日でウクライナ戦争開戦から500日が経ちます。子どもたちが家族から引き離され、母親が毎晩泣きながら子どもたちが帰ってくるよう祈っている姿が想像できるでしょう。

あまりにも長い時間が経ちました…彼らの涙は無駄ではありませんでした、そしてイエス様は今でも主です。トラックは全員が帰宅するまで走り続けます。



7月13日

このような種類の作戦には、リスクはつきものです。当初から関わってきた私たち全員が、リ

スクを想定しておく必要がありました。いざというとき、ウクライナの子どもたちをトラックで家まで送り届けるのは危険なのでしょうか？ その通りです!! 現場のチームは、あらゆる手を尽くして、子どもたちを連れ戻すために命をかけ、そのために必要なことは何でも行っています。もう皆さんもおわかりでしょう。

渦中にあるとき、実際にそれについて説明することはできません。皆さんの祈りと支援が私にとってどれほど大きな意味を持ったか、言葉では言い表せません。私だけでなく、トラックの運転手や食料を届けるチームも、子どもたちを安全に家まで送り届けるのに2~3日、時には4日もかけてロシア軍の支配地域まで往復しています。戦争の真っ只中では、走るたびに生死がかかっています。

3日前、5回目のトラック走行が104人の子どもたちを家族の元に送り届けて戻った後、前線地で非常に痛ましい命にかかわる事件が起きました。何が起こったとしても、チームは残りの180人の子どもたちが全員帰宅するまで走行を続けることを決定しました。諦めるという選択肢はありません。

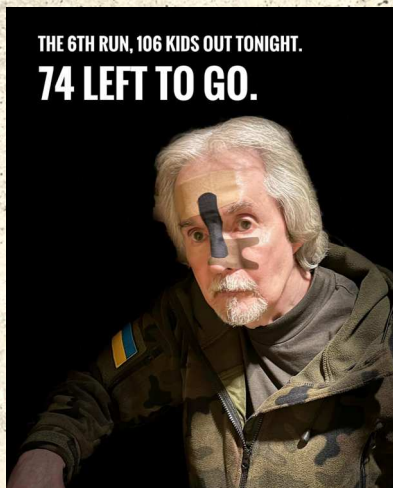
それで、その混乱の最中に電話がかかってきました。私たちのチームは現在、106人の子どもたちを2台のトラックに乗せる準備をしています。彼らは今夜、ウクライナ時間午後10時に6回目の走行のために再び出発する予定です。そうすると、74人の子どもたちが残されることになります。

私、現地にいる私たちのチーム、そして子どもたちの命が危機に瀕していることを知っている子どもたちの家族と共に、信仰を持って立ち上がっていただきたいのです。祈りのグループ、先生方、携帯電話のグループ、そして Facebook であなたをフォローしてくれる人々を集めてください。実現のために、私たち全員が、エペソ人への手紙3章20節の御

言葉に立ち、力を合わせて努力する必要があります。その御言葉をご存知でしょう…。

「どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に(エペソ3:20)」

私は信仰を理解しています。私は信仰の力を知っています。私の話をご存知の方も多いたと思いますが、私は12歳の時から信仰によって生きてきました。



教会の掃除道具入れで暮らした子どもとだからというだけでなく、神が超自然的にメロを通じてあらゆるものを備えてくださって、私たちがニューヨークの路上やアフリカのジャングルで日曜学校を行えるようにしてくださったことも、信仰が私をどれほど支えてくれたかを知っています。

私は信仰によって歩み続けて50年以上になりますが、その旅はまだ終わっていません。

不思議なことに、このようなことがウクライナで起こっているにもかかわらず、2日前には、メロのスポンサーの子どもたちの最初のグループのサマーキャンプが始まりました。日曜学校を開始するために私たちに門戸を開いてくれたアフリカの新しい3か国は、開始の準備に取り掛かっています。インドチームはムンバイの下町にある歓楽街で日曜学校を始めたばかりです。

これらは、まさに信仰による奇跡にほかなりません……。

それで、今夜キーウ(キエフ)時間午後10時に、私たちの2台のトラックがイエスの名において再び出発します。力を合わせて、私たちは強く立ち上がるのです。私たちは共に信仰に立ちます。

古い讃美歌にあるように……私たちは主に頼り、主の聖なる御言葉に信頼し、信仰によってここまで来ました。主は私たちを裏切ったことはありません…。

今後も最新情報をお知らせしていきますので、ご期待いただければ幸いです。

7月22日

先週の土曜日、私は教会の講壇に立って、礼拝の終わりに会衆を導いて、最後の74人の子どもたちのために祈っていました…。

そして今、私は世界中から耳を傾けてくれる皆さん全員で、東ヨーロッパ時間の深夜(7月21日)に最後の脱出を実行しようとしています。

常に申し上げているように、人生で最も難しいことは、始めることと終わることです。私たちは、トラック走行が最終的にどうなるかわからないまま、2台目のトラックを追加して、好調な



## ウクライナの叫び

スタートを切りました。そして今、私たちはこの最後のトラック走行で528人の子どもたちを家に送り届ける働きを終えようとしています。

不可能に思えた最後の走行は、多くの皆さんが自分の役割を果たしてくれたおかげで可能になりました。特にこのような困難を伴う状況下では、この種の活動がいかに危険であるかはおわかりでしょう。

皆さんの中には、トラックの出発時間に、夜中に目が覚めて、ただ彼らのために祈った方もいると思います。一晩中祈った人もいました。ありがとう！心から感謝しています!!

数週間前に地点1に行った時に、地雷で足を吹き飛ばされた少女のことをお話しました。彼女は最後のトラックに乗って家に帰ることになります。

ヨーロッパ人のあるビジネスマンが彼女の話聞いて、ワルシャワで義足を準備するためのスポンサーになることを決めました。彼女が帰宅したら、私たちは彼女と母親をトラックでハルキウまで送り、そこからバスでワルシャワまで行き、彼女に必要な様々な治療を受けさせる予定です。

繰り返しますが、私がいつも言っているように、たった一人の人が、本当に変化を生み出すことができるのです。そして、この528人の子どもたちを家に送り届けるには、支援し、祈り、断食した大勢の人々が必要でした。私たちはまだ戦争に勝ってはいないかもしれませんが、イエスの名において、私たちは確かにいくつかの戦いに共に勝利したのです。

私は、最後の子どもが帰国するまでは、どこに行っても現地です。ドローン攻撃を受けたときに着ていた軍用ジャケットを着て説教すると決めました。今週末、ついにこのジャケットを脱げるようにと祈っています。果たして脱げるでしょうか…?

私たち全員がこの作戦を勝利で終わりたいと願っています。さらに南の遠方に向かうため、何日かかるかはわかりません。

今日これを読んでいる皆さん。最後の女の子が母親と一緒に家に帰り、最後の男の子がついに母親の「とても会いたかった」という言葉を聞くまで祈り続けてください……。

7月25日

急いでお知らせします。最後の74人の子どもたちが、家族の元に帰りました。私たちはこの作戦を終えるために四六時中取り組んできました。私はすべてを敢行するために一日中打ち合わせをしていました。

彼らとチームのために祈ってくれてありがとう! すべてを実現させてくださった皆さんに感謝します。

できる限り早く、作戦の概要をお知らせします。

下記のサイトからご支援いただけます。

スマホはこちらから⇒

<https://metroworldchild.jp/offer>



## ケニア スポンサー募集中

あなたの周りに、子どものご支援をしていただける方はいませんか?

スポンサーが付けば、学校で給食が食べられるようになります。1日1食でも食べられるようになれば、生き延びることができ、学びにも集中できるようになります。文字通り人生が変わるのです。

メトロの関わる子どもたちの数は、昨年秋の26万人から現在は32万人へと急速に増えています。

メトロが学校内で活動できるように、アフリカでは新たに3か国で準備が進んでいます。一つの学校で、一度に数百人から数千人の子どもたちにイエス様の話をすることができます。しかし、その中には、まともに食べることもできないような、苛酷な状況で生きる子どもたちも数多くいます。



←お申込み

支援詳細→



## 日本事務所からの重要なお知らせとお願い

### 支援は続いています！

メトロ・ワールド・チャイルドでは、ウクライナ市民支援もトルコ・シリア地震の復興支援も継続中です。支援献金も引き続き受け付けていますので、よろしくお願いいたします。

どのような支援も、現地に直接の知り合いや支援者、メトロのスタッフがいないければ、実現することは困難です。世界的な大きな団体が資金を集めても、実際に現地に出かけて支援することは困難な場合がほとんどで、メトロがその働きを担うこともあるのです。

いつもそこにいて活動を続けているメトロならではの機動力と人間関係が、最終的に支援を必要としている人々に届くために必要なのです。

### ビル師来日予定日決定！

先月お知らせしていましたが、ビル・ウィルソン師セミナーを来年ようやく開催することになりました。

ビル先生は、スポンサーの皆様にご直接会ってお礼を言わなければならないので、来年は必ず開催したいということです。

開催日程は、3月17日(日)～24日(日)の予定です。開催場所などの詳細は未定です。ご自分の教会や地域で開催をご希望の方は、すぐにご希望をお知らせください。

また、お近くの会場で開催されるセミナーに、お知り合いの方と共にお休みを取ってでも必ずご参加ください。よろしくお願いいたします。

### ！ 違いを生み出す月曜日！

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。新規スポンサーを常時募集していますので、よろしくお願いいたします。コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、ケニアでは、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。現地を訪問した若いスタッフは、その悲惨さを目撃して、「違いを生み出す月曜日」のキャンペーンを提案。一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと努力しています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介します。

メトロ紹介&申込サイト⇒

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



### 日本事務所よりごあいさつ！

全国各地で、暑さの記録更新が続いていますが、皆様お元気でしょうか？ 以前の日本では考えられないような気温ですので、十分に注意を払いながら、元気でいきいきとした楽しい夏の日々としましょう。

ご紹介した通り、皆様の祈りとご支援により、子どもたちの救出作戦は成功しました。本当に感謝します。

今年 75 歳になるビル師ですが、文字通り、彼を止めるものは何もありません。来年のセミナー日程も決まりましたので、これから準備を進めていきたいと思っております。毎年開催しても、1年に一度しか直接会うことができませんので、どんなに忙しくても、ぜひご出席ください。

働きも急速に拡大し、ビル先生はじめスタッフは多忙を極めています。どうぞお祈りください。

皆様も健康が守られて、元気に夏を乗り切ることができるようにお祈り申し上げます。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



## メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-6

橋ビルⅡ7階 TFC内

電話 03-6264-7370 (松山事務所 089-992-9020)

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン